

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム うらら
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	北海道上川郡清水町南1条3丁目20-2
記入者名 (管理者)	佐藤 雅彦 (管理者)
記入日	平成 19 年 12 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・開設当初より、地域の社会資源として役割を明確にし、グループホームうらだからこそ出来る独自の理念を掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員は理念を心に刻み、常に意識する中でよりよい支援を検討し、日々実践に向けて取り組んでいる。また、いつでも理念を振り返る事が出来るよう掲示している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・地域全体として考えると理念の浸透はまだ不十分であると思われるが、町内会の参加、グループホームの見学、家族会、地域の方にも参加していただく運営推進会議を行い、取り組みや課題を明確にしている。また、玄関に理念を掲示しており、誰にでも見ていただけるようにしている。	○ ・今後、地域での広報活動を検討する必要がある。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・グループホーム利用者は、長年に渡り町内で生活されていた事もあり、地域に知人・友人が多い為、気軽にホームに足を運んで頂いている。また町内中心区での立地条件もあり町民の理解が次第に見られ始め声掛けや挨拶が増えている。 ・玄関先には広いスペースの花壇があり季節の花を植え手入れをしていくなかで、通りすがりの方も声をかけてくださり、何気ない会話も出来るようになっていく。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域での行事活動に積極的に参加している。また、役場、商工会、特養等からの行事紹介や参加要請を受け地元の人と交流する機会が増えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・職員間で話題に出る事があるが、実際は検討段階まで至っていない。しかし、当グループホーム運営者である医療法人がサポートクラブを立ち上げて地域住民や高齢者を支援する専門職に対して勉強会を開催し、管理者が中心となり協力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・第一回の外部評価改善点を会議で検討し、速やかに改善を行い、利用者や家族が安心して生活できるようスタッフ全体で取り組んでいる。また、地域密着の事業所として町民が安心して利用できるグループホームであるよう心掛けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議に参加する地域代表者の意見を元に、スタッフ全体で話し合い実践で生かせ様取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・町職員と連携を密に図り、医療・保健・福祉の専門職からアドバイスを受け、質の向上に取り組んでいる。専門的な役割や意見を持つ方から指導を受け、職員の安心・安全につなげている。	○	・今後町職員(保健福祉課)による勉強会を開く予定。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在、権利擁護・成年後見人が必要とする入居者は居ないが、管理者と全職員が必要とする知識の一つである為、今後、研修会を持つ必要がある。・権利擁護については、当事業所内に掲示し個人の権利について理解を深める様努めている。	○	・地域包括支援・社会福祉協議会との連携を図り知識を深めて行きたい。・勉強会を検討中。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束・虐待の研修会に参加し、学んだ内容を報告会で周知している。また、安全対策、身体拘束等の委員会を設け、虐待防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時に説明を行い、家族に理解して頂いた上で同意を得ている。また、不安のある際は、その都度説明を行い、負担の軽減を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・当グループホームは掲げている入所者の喜怒哀楽の自由な表現が浸透しつつあるのか、言葉から不満や苦情だけではなく、表情などの非言語からもくみ取るよう努力し、その都度職員間で解決策を考え、迅速に対応している。また、苦情を受ける為のポストを設置し行なっている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・面会時、又は遠方の家族等には電話等で近況を報告するなど必要に応じて対応し、意見や希望を記録に残し、活用している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・玄関にご意見箱を設置し、書面での意見や苦情等を集めているが投函されていないのが現状、苦情等があった時には、スムーズに対応できるような体制を整えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・月一回の会議の中で話し合う機会を作り、スタッフの意見や提案を出せる機会を設けている。又、運営者、管理者に意見を出せる雰囲気作りを心掛けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・入居者の状態、生活パターンや業務を把握し、入居者が安全で安心して生活できるように、勤務のローテーションを組んでいる。又、行事等、必要時においても勤務調整を行なっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・当ホームについては異動はないが、離職者が出ない様に働きやすい職場づくりを常に心掛け配慮しているが、今後も避けられないテーマでもある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業所外での研修にも参加できるよう対応している。また、状況によっては、事業所内での研修や運営主体である医療法人や地域で行われる研修会にも参加できるように配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他事業所との連絡を図り、ネットワークを広げている。また、共同での勉強会は行っていないが、情報の共有を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・施設主任がスーパーバイザーとして業務上の悩みやストレス等を聞いてアドバイスをする等、職員のスキルアップにつなげている。ストレスの軽減を図れるよう、状況に応じて職員の交流を行っている。	○ ・定期的にスーパービジョンを行っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の努力などを把握し、管理者を含めて運営者と検討は行っている。職員が悩んでいる事や困難事例に迅速に対応し、意欲低下を防ぐよう配慮している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ケアマネがプランを作成し実施していく中で一つ一つ利用者が持つ悩み・問題を解決し、本人が持つ新しいニーズを引き出す努力を心掛け対応している。また、職員で聞き出せない事等は、家族の協力を得て聴いてもらう事もあった。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所の事前に相談し、適切な対応が出来る様心掛けしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・スタッフ全体で今、利用者には何が必要なのかを関わりの中で引き出せる様努めている。又、社会福祉士と連携を計り対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・開設当初は入所を前提として、サービスを利用する事が多かった。その為、在宅への訪問や病院等の訪問を繰り返し、馴染みの関係を構築できるよう心掛けている。また、本人が納得する為にどうすれば良いかを考え必要に応じて体験入所も行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・ホームの理念にある喜怒哀楽を表現できる環境を作り、日々助け合い支え合う関係作りに心掛けている。また、入居者から様々な事を学び得るとの思いが、互いに寄り添える時間を一番大切にしたいとの考えにつながっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・運営理念で掲げている相互関係を大切に、家族と一緒に本人を支えていけるように関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・入居者本人にとって家族という大きな存在がある。面会に家族が来て頂いたり、外出での家族との触れ合いは、とても有効なため今後も本人と家族の関係を大切にしていきたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人や場所を大切にしているとともに、馴染みある服や小物等も大切であり、いつまでも途切れることがないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者それぞれに性格や価値観等が違いうように、9人の集団生活の中で喜怒哀楽が交わることもあるが、支え合って行けるよう平日頃より職員で検討を行い、環境作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・開設してからサービス利用終了するケースが少ないが、契約が終了していても関係については断ち切る事がない様心掛けている。(町内の行事などで挨拶や、会話をし最近のホーム内容を説明する)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個々の入居者に寄り添い可能な限りニーズ把握が出来るよう努め、日々の生活の中で本人の希望を訴えられている時などは、記録し検討している。また、困難な場合についても日々の会話の中での言葉(思いや希望)や表情等から真意を捉え、本人の立場に立って考えている。また、今までの生活を大きく変化させることなく必要最低限にとどめ、新たな生活の場で入居者主体に生活できるよう心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族からの情報を基に生活歴や馴染みの環境を把握し、その背景を考慮しながら、グループホーム内でも本人のペースを考え、安心して生活できるような支援を心掛けている。また、今まで継続してきた趣味活動を取り入れ心身機能の安定を図っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・関わりの時間を持ち、日々の生活の中での状態変化を行動表に詳しく記載し、職員間で連絡を密にし、その日の心身の状態に合わせながら、できる事できない事を見極め対応している。また、医師その他の専門職と連携し総合的に把握できるよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居者、家族が面会に来た際は、現在の状態を伝え、家族の思いを知り計画作成者が中心となって各担当と計画を作成している。職員全体の意見を取り入れQOLの維持、向上を心掛けて課題分析を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・心身状態の変化を見極め、入居者や家族と調整を図り柔軟に対応できる環境を作り、本人の要望や状況を家族に説明し、意見や要望を明確にしてから、介護計画の見直しを行っている。また、必要に応じて各専門職の意見を聞き、ニーズに迅速に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・入居者それぞれの生活状況を個別に具体的に記載する事で他者にも理解しやすいよう配慮している。また、様々な角度からの視点で計画書の見直しに活かし反映させている。	○	・”気づき”がうまく表出されていない為、もう少し上手にセンター方式を活用していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の要望に対して柔軟に対応できるよう併設事業所や医療機関との連携を図り、入居者にとって負担となる入院の回避、早期退院の支援などを行っている。また、通院や送迎など必要な支援も柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・多機能性を活かし柔軟に取り組んでいるが、入居者の生活を支えるうえで、フォーマル、インフォーマルな社会資源は必要不可欠であると考えている。実際に様々なボランティア等の協力があり入居者のQOLに必要な財産となっている。	○	・もう少し活動を広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域にあるサービス事業者やケアマネジャーとの協力や連携を図っている。入居前に他のサービスを利用している入居者も多いため、情報量も多く、今後も協力体制は維持する必要がある。 ・現在までは他のサービスを利用した例はないが、必要に応じ支援を考えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議には地域包括の保健師等に参加して頂き指導や助言を頂いている。また、保健福祉課での窓口になって頂き、相互に働きかけを行っている。	○	・権利擁護に関する研修会をしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・当グループホームでは医療法人が開設したこともあり入居前から入居者の状態把握をすることが可能であり、週一回往診を常に入居者の状態を把握できる様な取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライバシーに関する事は、声の大きさ等に気を付け、不快感を感じさせない様な声掛けを行っている。また、記録、個人情報に関しては、個別のファイルを設け管理をしている。	○ ・係わりが日常的なため、羞恥心・自尊心等に対する配慮を欠いた発言にならない様に心掛ける。・行動表等は、カウンターに置くと入居者の目に入るの、置かない様にする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者主体の支援を心掛けており、入居者の気持ちを尊重し、本人が決められる様に職員が働き掛けながら、決定を促している。また、希望が出ない時等は、職員からいくつかを提示して選択出来る様に工夫している。	○ ・日々、寄り添えるよう心掛けているが、時に寄り添える時間が確保できないことがある。今後、個人、入居者同士の大切な時間をそれぞれに見極め、関わりを持つ時間を今以上に作っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・当グループホームでは、利用者9名を中心として日常生活が成り立っている。職員側の決まりや思いもあるが、入居者の生活リズムに合わせて柔軟な対応を出来る様に日々心掛けている。	○ ・1人ひとりに目を向けられる様に今以上に努力していきたい。特に何をしてもなく過ごされている利用者に対してリアクションを取っていきたい。また、何か1つの物を作るのにも出来る、出来ないがあると思うので一部でも制作に携われる様な配慮を行いたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容・美容はこちらから行けない場合は出張で来て頂いている。また、入居者の好む衣類や日常生活品を確保し、普段から身だしなみを気に出来るような体制を作っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の状態に合わせて形状を考えて準備している。また、献立作りの際、利用者へ聞き取りを行い作成し、嗜好にも合わせれる様に対応しているが、この点に付いては、まだ不十分の様に思われる。	○ ・準備等を手伝う入居者が決まってきたので、個々の力をどのように活かす事ができるのかを職員で話し合い、できるだけ皆さんに役割が当たるよう検討する必要がある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・嗜好は、入居者のニーズの一つとして大切に思い対応している。今までの生活の中でそれぞれに好みの物はあり、出来る限り希望に添えるように対応している。また、過剰に摂取し、心身症状の悪化を防げるよう安全に安心して楽しめるようコミュニケーションを図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・食事内容、水分補給にて自然に排泄できるよう心掛けている。また、日常生活で身体を動かし、排泄リズムが安定するよう配慮している。また、排泄に関して不安が見られる際は主治医と連絡し、下剤コントロールが出来るように体調を整えている。	○	・自分でトイレに行かれている方の排泄パターンの情報収集が不十分な所もあり、普段からの体調の変化に注意していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴したい時間帯や回数を個々に確認し、プランに反映している。また、状況に合わせて入浴できるようにしているが、入居者の中には入浴を好まない方も居るので、その際は、皆で入浴が楽しめるようにと温泉へ外出なども行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中の活動を多くし、自然と安眠が出来るよう生活リズムを整えている。寝付けない時には、添い寝をしたり、温かい物を飲みながら会話をする等の配慮をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・台所仕事や好きな事を手伝っていただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。今まで行っていなかった事を行うことにより、楽しみを感じられて表情が穏やかになっている。	○	・全ての利用者に対して楽しみごとが一致するのは難しいが、出来る限り近づけるように皆で情報を出し合いながら今後も支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理は本人と家族で相談の上対応している。自己管理可能な方は財布を持って頂いており、出掛ける機会を利用して、可能な限り入居者の力でお金を払って頂き、職員と一緒に寄り添い自尊心に配慮している。	○	・お金を自分で払う機会をもう少し増やしていきたいと考えている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・職員の勤務体制の充実を図り、できるだけ自由に外出できるよう心掛けている。また、事故の無いよう寄り添い対応をしている。	○	・入居者のADLの低下や天候によって外出が左右されている。また、設立当初よりも外出の機会が少なくなっているため、状況を見極めて外出の機会を増やすことも考えていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・入居者全員で回転寿司や公園に行ったり外出する機会を設け、家族参加型の行事も企画して地域のお祭りや外食などに出掛けている。	○	・デパートへの買い物外出や、個々での外出の支援なども今後増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望に対応できるように公衆電話を設置している。また、手紙も希望に合わせて個々に対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会者に挨拶したり、お茶を出す等とゆっくりして頂けるよう工夫し、家族や友人に気軽に訪問して頂いている。遠方に居る家族の訪問も難しい場合もあるが、定期的な訪問を心掛けて頂いている。また、手紙や荷物を送って頂いたり、入居者の不安を軽減して頂いている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないよう委員会を中心として取り組んでいる。また、研修に参加した際には、他の職員にも情報提供し、資料の添付を行い全職員で考えで取り組んでいる。	○	・本人が望むことと職員が望むことが異なっている場合の判断が難しい事があるので、その都度皆で対応を考えていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中夜間を通して施錠せず、自由に入出りできるようになっている。夜間の正面玄関は、安全に配慮し外から中に入れないように施錠し、浴室も使用していない場合には施錠し事故が起こらないよう気を付けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・居室の戸を開けていてものれんを掛け、居室内を見え難くしながらも入居者の所在や様子が分かるように工夫している。また、夜間帯は職員が減るため、当番職員を配置し、どの様な状況でも柔軟に対応できるように体制を整えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・薬、洗剤、包丁など危険物を適切に取り扱えるように心掛けている。入居者の状態に応じて自己管理出来る物を見極め、個人の針やはさみ等の保管状況を定期的に確認する等、安心して生活できるように配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故防止対策委員会を設置し、全職員で取り組んでいる。また、事故が発生した際も、事故報告書に記録し、事故を全職員で振り返り検討している。入居者個々によって対応が違うことも考えているため、一人ひとりリスクマネジメントを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防署員との連携を図り、応急処置の知識を身に付けている。また、医療法人との連携を密に取り、常日頃から急変・事故発生状況を想定してケアを行っている。	○	・頭では理解しているものの実際に急変や事故発生時にスタッフ全員が適切な対応ができるかの心配は除けていない。定期的な訓練を今後考えていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練の実施を行い、災害時でも適切に対応できるように講習を受けている。また、緊急の際でも柔軟に対応できるよう職員の連絡網を作り体制が取れるようにしている。	○	・避難訓練などを実施して、災害時などに利用者が的確に避難できる様に備えていきたい。また、地域住民への協力の部分については、推進会議での議題で取り上げていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・ケアプランの説明時や面会等で日常生活の状況を説明し、理解を頂いている。また、状況に応じて電話対応を行い、必要の際は、主治医と話し合いを持てる体制を整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタル測定を毎日行い、普段と違う場合は再検を行い、職員間でも情報を共有している。また、医療法人で開所している事もあり、医療との連絡体制も整っており、週に1回は主治医、看護師が訪問し、情報の共有と今後の症状の変化などの対応について指導、助言を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は入居者の疾病の理解と共に、服用している薬に関して把握に努めているが、副作用や用法や用量等に関しては、十分に理解できていない。	○	・薬の目的や作用をもっと理解する様努力したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・下剤のみに頼らず、入居者の生活リズムを整え、食事内容や水分補給に配慮し、適度な運動が行えるよう体操を実施している。また、排便状況を記録し、入居者の状態を見極めるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・入居者の口腔内の検診を行い、口腔内の状態を把握しながら、口腔ケアの声掛けや義歯洗浄を行っている。また、入居者からの訴えがあった時には、協力歯科に連絡を取り対応している。	○	・毎食後の口腔ケアを行えていない方がいるので、今後の支援方法を考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入居者の好みの食事も配慮し、その中でバランス良く摂取できるように心掛けている。また、一人ひとりによって摂取状況も異なる為、毎食後記録し、必要最低限の栄養、水分摂取が出来ているか理解に努めている。	○	・水分補給など行っているが、摂取量が不足気味の方への支援に力を入れていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染対策委員会を中心として、手洗い、うがいを強化して行い、共有場所、調理器具、トイレ等の消毒の時間も取り決めて実施している。	○	・手洗いの習慣をつけるよう努力が必要。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日、買い物に行き、新鮮なものを買って調理している。また、全職員で食中毒や感染に関する情報を共有し、適切に対応できるように体制を整えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関は気軽に入りやすいように花で歓迎し、入居者で作成した飾りを付けて訪問者を出迎えている。また、正面玄関は地震が来ても入り口を塞がないよう広くスペースを取っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは、窓から自然と光が取り入れやすいように大きく取り、状況に応じてカーテンで光や寒さを調節している。リビング、廊下、玄関等に季節を感じられる物を入居者と一緒で作成し飾っている。	○	・小上がりに座っている入居者の方は、足が冷たいので冬までにジュータンなどで保温できるよう検討中
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングではソファや畳の小上がりを設け、入居者それぞれで落ち着く場所で安らぐことが出来るように配慮している。また、玄関や廊下のスペースにソファを設置し、居室以外でも一人の時間を大切に出来るよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・なじみのある物や気に入っている物を配置し、居心地の良い過ごしやすい空間を作っている。	○	・個々と相談しながら今後も取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・季節に応じて加湿器を設置、換気を定期的に行い湿度を調節したり、温度調節も入居者の状況に応じて行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ADLの状況に柔軟に対応できるようにバリアフリーになっており、浴室も車椅子の方でも使用できるように考えているが、車椅子用のトイレが狭く身動きが取りづらい面もあり、カーテンを設置する等の工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・日常生活の中で入居者が出来る事を役割分担し、互いに助け合っている。また、混乱が無い様に、行為の手順をお膳立てして思い出していただけるような工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・花壇や家庭菜園をして、成長を楽しんで頂いたり、収穫したり出来るスペースがある。また、焼肉などをして楽しんでいる。	○	・歩行が困難の方の為に、ベランダから庭へのスロープ等を考える必要がある。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・街の中心部に開設している為、町内での行事に参加しやすい。家族や知人も訪問しやすい。祭りの華やかさやにぎやかさをホームに居ながら雰囲気を感じることが出来る。  
 ・医療法人前田クリニックが事業主の為、病院の前にグループホームがあり、入居者の状態が急変した際には、すぐにDr・NSにより対応してくれる。  
 ・菜園や花壇が充実しており、菜園で採れた物を食卓にならべている。